

『ハラスメント実態アンケート』自由記入欄 意見集約についての見解と要請

2014年6月22日第8回女性部役員会決定

私たち全農協労連女性部は、2013年秋に女性職員を対象とした『ハラスメント実態アンケート』を実施しました。

ハラスメントにしほり初めての取り組みとなった本アンケートには、全国から多くの女性の声が届けられました。2014年4月に発表した第1次集約は単組にお送りし、職場討議に付してもらうよう要請しているところです。

アンケートは選択項目と自由記入欄を設定しており、第1次集約は選択項目についてグラフ化したものを発表しました。回答数は1172（2014年4月現在）と決して多くはありませんが、そのうちハラスメントは48%、セクハラは64%もの女性から被害が報告されています。

「ハラスメント」という言葉が社会的にも認知されるに従い問題の深刻化も告発され、各企業ではハラスメント対策が講じられています。しかし、今回のアンケート結果は、農協や連合会の職場において、ハラスメントが過去のものではなく今この瞬間にも悩む女性がいることを証明していると言えます。

自分の職場ではそこまでのハラスメントは起こっていないだろうと考える人もいるかもしれませんが、しかし、ハラスメントは非常にデリケートな問題で、例え女性同士であっても相談できず1人で悩みを抱え苦しんでいる場合の方が多いと考えるのが自然です。また、未だにハラスメントの判断を個人の感覚に任せている点が見受けられるのも、問題を深刻にしている要因の1つと考えます。

アンケート実施に際しては個人が特定されないことを約束しています。自由記入欄にはハラスメント被害を訴える悲痛な文章がつづられています。①個人・地域・職場が特定できる記述が散見されること、②記載内容から個人は不特定と判断できたとしても、回答を抽出して女性部が公表するのは記述者の本意ではなく、また抽出には女性部の恣意が生じてしまうこと、これらを回避するため当初の約束通り公表は差し控えます。

ただ、勇気を出して回答を寄せてくれた全国のなかまは、このアンケートに回答することで職場のハラスメントの一扫を強く望んでいます。当然、ハラスメントは男性も被害者になりうる問題です。女性部が掲げる目標は、「健康に働き続けられる職場」をつくっていくことです。これは女性も男性も、共に働きやすい環境をつくることにも通じます。

私たち女性部はさらに多くのなかまの声を集め、その実態を問題提起し、今後も継続して集約を発信していきます。それをもとに各職場でのハラスメント一扫の対策に取り組んでもらえるよう要請します。

以上